

沖縄における鉄器研究について

當眞 崑一^{※,※※}

Archaeological Studies on Ironware in Okinawa

Shiichi TOMA^{※,※※}

はじめに

14世紀の中葉、沖縄本島中部一帯の霸者として現在の浦添あたりに察度という人物が現れた。察度は1372年に明の太祖洪武帝の招諭に応じて入貢し、初めて対中国貿易を開いた王として有名である。察度の誕生についての伝承では天女の子として生まれたという天女伝説と結びついている。彼は長じて、近くの牧港に来航した日本の商船から鉄塊を買い入れて農具をつくり、農民に与えたので信望を得、そして浦添按司に推され、やがて中山王となったという。その王統のことを察度王統といっている。

第一尚氏王統を築いた尚巴志王の場合にも、日本の商船から鉄塊を買って農具を作り、農民に与えて大いに人心を得、王位についたという伝承が伝わっている。このように、察度と尚巴志の話からもうかがえるように、琉球王国の成立にとって鉄器は琉球史上重要な役割を果たしたことがわかる。

『琉球の歴史』の著書で知られる仲原善忠は、その著書のなかで「石器を使用して貧弱な生活であった部落を解体させ、一種の社会革命をもたらした」と述べ、また鉄は利器として水田の開拓を拡大し部落は再編成され「従来の権威は転倒し、振興の支配階級である按司が出現してきた」として鉄導入の時期を沖縄歴史発展の大きな画期と捉えた。

このように鉄に関する事象は、沖縄の歴史の上で大きな意味を持ち、研究者の大きな課題にもなっている。ところが、沖縄での鉄器研究についてはいまだ緒についたばかりであり、これから研究に大き

な期待がかかっている。本稿では、鉄に関する諸論考を見ていく中でこれまでの研究成果についてみていくこととする。

鍛冶関連遺物の出土とその遺跡

ところで琉球史の発展にとって大切な論点である鉄関連の調査研究については、近年になってようやく緒についたばかりである。最近では、鍛冶関連遺物の出土例も増えてきており、鉄関連のことについては私が興味を持ちだした1960年代後半からすると、遺物の出土例や関連遺跡の発掘調査の進展は著しく、当時と比べるとまったく隔世の感がする。

県下の鍛冶関連遺物の出土例は、沖縄県立博物館が教育普及書作成のために調査した時期には（沖縄県立博物館『考古資料より見た 沖縄の鉄器文化』1997年3月発行）135遺跡確認されていたものが現在では、150遺跡に増えてきている。

本稿に収録した南西諸島における鉄関連遺物出土の文献一覧は、1996年沖縄県立博物館で筆者を中心とし上原久氏と仲間留美氏の3人でまとめた文献一覧に抜け落ちていたものを追補したものである。沖縄における鉄器研究の基礎資料にもなればということでここに収録することにした。

調査や研究状況について

1960年代の後半以降、今まで明瞭でなかった鍛冶関連の遺跡が各地で発見され、調査された遺跡と、その成果を収録した報告書や研究論文の数も増加の

※ 〒903-0823 那覇市首里大中町1-1 沖縄県立博物館
Okinawa Prefectural Museum, 1-1, Onaka-cho, Shuri, Naha, Okinawa 903-0823, Japan

※※ 現住所 〒903-0111 西原町字与那城309 グスク研究所
Present Address: Institute for Gusuku Sites Studies, 309, Yonashiro, Nishihara, Okinawa 903-0111, Japan

一途をたどっている（第1表参照）。鐵関連の学問研究については承知のようにいろいろな学問分野からのアプローチが可能であり、実際、個別の各専門分野においても数多くの研究成果が蓄積されてきている。さらに、考古学・歴史学・民族（俗）学・地理学・社会学・経済学などの人文社会科学系や冶金学・金属学・鉱物学・地質学などの自然科学系など学際的な研究も進められ、今日では目を見張るほどのすぐれた多くの研究成果が蓄積されつつあるといってよい。

沖縄県内で発掘された関連遺物の金属的調査については、筆者が高等学校に勤務していた1969年当時、同僚の化学の教諭に依頼して実施した伊原遺跡の鉄滓を分析してその成果を発表したのを嚆矢として、1976年の砂川元島遺跡の二次調査で大澤正己が行った鉄滓の科学的分析以降現在までおよそ40近い遺跡でその成果が報告されている。

筆者が同僚に依頼して試みた金属学的調査は、分析器具や装置がまったく不備だった時代の限られた条件下での成果であり、現在の分析結果から見ればまったくもって頼りないものであったが、その方法を沖縄で初めて実施したことでは何らかの意義があったものと思う。その後、鍛冶関連遺物の金属学的調査を精力的におこなってきたのは大澤正己氏である。氏には1978年の渡名喜島遺跡出土の鍛冶関連遺物の調査をお願いしてから今日まで数多くの沖縄出土の鉄滓や鉄器などの金属学的調査をお願いしてきた。その結果については逐次報告され、現在では大澤氏の働きによって数多くの成果が蓄積されつつある。

鉄器研究略史

沖縄の貝塚時代後期の遺跡から石斧を中心とする石器群の出土が極端に少なくなる事実から南西諸島における鉄器使用の開始を考えようとする意見もあるが、今のところ考古学的な出土遺物や遺跡などからはそのことを裏付ける決定打はない。しかし、前にも述べたように鉄に関連する考古学的資料は確実に増加の一途をたどっており、その金属学的調査も蓄積されるなど研究は確実に進展しているといえよう。次に沖縄における鉄関連研究の歴史について、刊行された書物や論文等を中心にしながら時系列で

見ていくことにしよう。

○多和田真淳の調査研究

考古学の視点からの鉄器研究は多和田真淳氏が先鞭をつける。多和田は琉球政府時代の文化財保護委員会に勤務し、1956年から1962年にかけて、奄美大島から沖縄本島および周辺離島、さらに宮古、八重山諸島をくまなく調査して考古学上の遺跡を数多く発見し、それを当時の琉球文化財保護委員会政府発行の文化財要覧に逐一報告した。遺跡の数は120余カ所にのぼる。多和田は、考古学だけでなく、文献資料である「おもろさうし」等にも造詣が深く、考古学やおもろなどの面から鉄関連のことについて考察を行っている。

多和田の論文は次のとおり。

- ・「琉球古代の鉄の輸入」『月刊 考古学ジャーナル』第14号 1967年
- ・「琉球古代の鉄の輸入（その2）」『月刊 考古学ジャーナル』第59号 1971年

○城間武松の研究

1968年、城間武松は金秀鉄工株式会社の創立20周年記念事業の一環として『鐵と琉球』を編集した。この書は沖縄の鉄に関することについて文献資料や伝承、民俗などいろいろな角度から取り上げている。考古学の立場からは、先にあげた多和田真淳の論考「琉球古代の鉄の輸入」を特別寄稿という形で収録している。鉄の研究論文集とはいえないが、まとまった鉄関連の書としては沖縄県で初めて刊行されたのものであり、しかもいろいろな分野からの資料が生に近い形で紹介されているので、伝承などが途絶えつつある今日、貴重な書といえる。付録として第二次世界大戦後の鉄工業の概況として「スクラップブルーム」のことや鉄工業者の活躍および業者名簿などが掲載されている。さらに沖縄における鉄関連の歴史年表まで添えられていて研究者にとっては貴重なものとなっているが、限定出版のため今日では入手困難である。

- ・城間武松『鐵と琉球』金秀鉄工株式会社 1968年。

○新田重清の研究

1969年、新田は宇佐浜B貝塚から出土した遺物に

鉄滓が含まれていることを報告した。そのなかで新田は、沖縄における鉄器初現が弥生時代まで遡ることに言及する。当該貝塚は沖縄貝塚時代後期（弥生時代相当期）に属し、古い時代の鉄滓遺物として当時考古学研究者の間でも大きな話題を呼んだ。

- ・「最近の沖縄における考古学界の動向」『琉大史学』創刊号 1969年

○友寄英一郎の研究

1970年、友寄は沖縄の遺跡から出土する弥生土器を調査研究するなかで、沖縄における鉄器の移入や使用開始の時期を弥生相当期の貝塚時代後期と推定し主張した。

- ・「沖縄出土の弥生式土器」『琉球大学法文学部紀要 社会篇』第14号 1970年

○當眞嗣一の研究

1971年、當眞は沖縄本島南部糸満市の伊原遺跡に散布するおびただしい量の鉄滓を発見し、その量の多さと遺跡の広がりに圧倒された。その後、當眞は鉄関連の問題について鉄滓を出土する遺跡の面から接近し、沖縄における鉄器文化に言及した。當眞の論考は沖縄県内でのとくに鉄生産を問題にしたものであり、同僚の化学の先生に依頼して実施した鉄滓の定量分析表を使って鉄滓の性質を明らかにしたことと、鉄製品出土地地名表を掲載したことである。この地名表に載せられた鉄器例は21遺跡、鉄製品の種類は15点であった。

その後、當眞は、鍛冶炉と見られる遺構を伊波後原遺跡（1973）と宮古元島遺跡（1979）、浦添城跡（1982）等でも検出した。

また、1997年には沖縄県立博物館教育普及書作成のなかで、沖縄の鉄器文化について考古資料の研究成果の集大成をおこなった。

- ・「沖縄における鉄滓遺跡と鉄器の諸問題」『琉球史学』第2号 1971年。
- ・『考古資料よりみた 沖縄の鉄器文化』沖縄県立博物館 1997年。

○砂川元島遺跡発掘調査団による鍛冶遺構の検出と鉄滓の科学的分析調査

1975年の12月、青山学院大学の砂川元島遺跡発掘

調査団は砂川元島の第二次調査で鉄滓が多量に散布する場所を発掘し、鍛冶遺構の円形の炉床跡を発見した。炉壁は高さ6cm、幅12cm、内径60cm程のものであった。炉跡の周辺から鉄滓や鉄製品の破片が発見された。鉄滓の分析は大澤正己が実施し、その成果は砂川元島遺跡発掘調査（第二次）の報告書にまとめられている。分析を担当した大澤は、分析結果の「まとめ」で「鍛冶遺跡としての裏付けになり、また鍛冶屋敷の呼名も残っていることから、年代もさほど古くはならないであろう。（中略）今回の調査鉄滓の外観から考えても近世のものではないかと考えられる」と述べている。本格的な鍛冶炉の発掘と鉄滓遺跡の化学的分析調査は沖縄県で初めてのことであった。

1977年3月、青山学院大学のヤマバレー遺跡発掘調査団は石垣市川平に所在するヤマバレー遺跡の第2次調査を実施し、鍛冶炉の遺構と鍛冶工房跡を検出した。炉床の規模は径70cm、周囲を石で囲い、炉床が掘りこまれている。砂川元島との比較では炉の径はほとんど同じだが、周囲が石で囲まれ、炉床が掘り込まれている点に違いがある。遺跡となったこの村落は、14世紀から15世紀にかけて繁栄し、16世紀中頃に終末を迎えたと報告書は記している。この遺跡から出土した遺物の金属学的調査は実施されていない。

- ・『砂川元島遺跡発掘調査概報（第二次）』砂川元島遺跡発掘調査団・青山学院大学 1976・
- ・『沖縄・石垣島ヤマバレー遺跡第2次発掘調査概報』ヤマバレー遺跡調査団・青山学院大学 1980。

○古波津清昇の研究

1983年、古波津清昇は『沖縄産業史～自立経済の道を求めて～』を著した。その第一章で、「古代の琉球と鉄」という章をおき、沖縄の鉄や鍛冶屋のことについて紹介している。このなかで伊原遺跡や浦添城跡、宮古八重山から得られた鉄滓の金属学的調査を窪田蔵郎氏に依頼し、その成果などについて紹介している。そのなかで古波津は、「古代琉球における鉄の生産は試作程度のことはあったとしても、実用に供する程の経済生産がなされたとは考えられない（略）鍛冶技術はかなり進んでいたものと思わ

れる。それは窪田氏も述べているとおり鍋釜の破片を集め、鉄から脱炭して鋼に変える技術があつたかもしれないことが、伊原遺跡の鍛冶溝から推察されているからである」と述べている。

- ・古波津清昇『沖縄産業史～自立経済の道を求めて～』文教図書 1983年。

○福地曠昭の鍛冶屋の調査

沖縄県下各地域を調査し、鍛冶工たちの体験・証言などを精力的に聞き取り調査し、その成果を『沖縄の鍛冶屋』として刊行した。

- ・福地曠昭『沖縄の鍛冶屋』海風社 1989年。

○朝岡康二の研究

1991年2月、朝岡は『南島鉄器文化の研究』を著した。朝岡は鉄器加工（鉄製農具の生産と修理再生）に関わる習俗とそれを担うところの鍛冶職人の技術的な側面の調査研究を通して、日本の伝承的社會における職人と農耕村落との民俗的な相互関係を追求した研究者である。本書は朝岡のライフワークとしての南島におけるそれであり、四年間における沖縄勤務の間に沖縄本島各地域や離島などをくまなくまわり研究した成果を刊行した書であって、沖縄の個別研究の上で近年にない研究成果の一つといえる。

- ・朝岡康二『南島鉄器文化の研究』 溪水社 1991。

○大澤正己による金属学的調査と研究

前述したように大澤は、鉄器や鉄滓などの鉄関連遺物の科学的分析から沖縄の鉄についていろいろと言及している。大澤が分析した関連遺物の金属学的調査は、宮古島の砂川元島の調査以降36余の遺跡において今日では沖縄における鉄器文化の研究に大きな役割を果たしている。大澤が発表した事例は第2表の通りである。

○大城慧の研究

1980年代に入ると沖縄各地で開発に伴う発掘調査が頻繁に行われ、それに伴い鉄関連の遺構や遺物も増加してきている。そういう状況のなかで考古学研究の分野から沖縄鉄器文化を追求しているのが大城である。大城は、グスクから出土した鉄器や鉄滓な

どの遺物の出土地名表をまとめ、さらに鉄関連遺物の集成を行う一方、グスク時代の鉄器文化の様相を鉄器製作の技術的発展段階として捉えるなど勢力的な調査研究を展開している。

- ・「沖縄における鉄関連遺跡と鉄器資料について」(1983)、「沖縄の鉄」(1986)、沖縄グスク時代遺跡出土鉄器・鉄滓出土地名表」(1990)、「沖縄の鉄とその特質」(1997)、「沖縄考古学における鉄器研究の現状と課題」(2004)など、多くの論文を発表している。

研究の成果と今後の課題

鉄および鉄器関連のこれまでの研究成果についてまとめる概ねつぎのとおりである。

1. 沖縄での鉄器使用の開始時期は、宇堅貝塚から出土した板状鉄斧や中川原貝塚出土の袋状鉄斧などの例から沖縄貝塚時代の後期、つまり弥生時代の後期が想定される。
2. 鉄斧などの製品と鉄器の素材どれが先に入ったかといえば製品が先に入ったと考えられる。
3. 宇堅貝塚出土の板状鉄斧は鉱石系の鉄素材が考えられ大陸産と思われる。
4. これまでの鉄関連の遺物や考古学上の遺構および関連遺物の金属学的調査などから鉄生産の主体は鍛冶技術であった。つまり自前の鉄は生産しなかった。ただ、我謝遺跡や浦添城跡出土の鉄滓の一部で高チタン砂鉄系を原料としており、また、牧港貝塚、後兼久遺跡では砂鉄も出土しているので今後の研究がまたれる。
5. 鍛冶溝には、鉱石系と砂鉄系が共存して存在している。その入手先を特定していく作業は今後の大きな課題になっている。
6. グスク時代には大鍛冶や小鍛冶が存在し、材料鉄の輸入を前提とする鍛冶技術の発達が認められるが、その体系化が強く望まれる。
7. 各地のグスクや鉄関連遺跡から鍛冶溝と鉄鍋破片および板状鉄、棒状鉄などが共伴する事実などから、グスク時代にあっては材料鉄から製品を作り上げる技術や鉄鍋等の破片をリサイクルする修理再生加工技術などがかなり発達していたことがわかる。

「南西諸島における鉄関連遺物出土」 文献一覧
(1996年12月現在)

宇佐浜貝塚B地点

多和田眞淳「琉球古代の鉄の輸入（その二）」『考古学ジャーナル』No.59 1971

根謝銘グスク

『大宜味村の遺跡』大宜味村文化財調査報告書第2集 大宜味村教育委員会 1984.3.20

今帰仁城跡

『今帰仁城跡発掘調査報告I』今帰仁村文化財調査報告第9集 今帰仁村教育委員会 1983.3.31

兼次古島遺跡

『今帰仁村の遺跡』今帰仁村文化財調査報告書第10号 今帰仁村教育委員会 1984.3.25

仲尾次貝塚

「今帰仁村の先史時代」『今帰仁村史』今帰仁村役場 1975.7.1

『今帰仁村の遺跡』今帰仁村文化財調査報告書第10号 今帰仁村教育委員会 1984.3.25

平敷ウガン遺跡

『今帰仁村の遺跡』今帰仁村文化財調査報告書第10号 今帰仁村教育委員会 1984.3.25

謝名遺跡

『今帰仁村の遺跡』今帰仁村文化財調査報告書第10号 今帰仁村教育委員会 1984.3.25

ウンジョウハイ遺跡

『今帰仁村の遺跡』今帰仁村文化財調査報告書第10号 今帰仁村教育委員会 1984.3.25

古宇利原遺跡

『古宇利原遺跡発掘調査報告書』今帰仁村文化財調査報告書第8集 今帰仁村教育委員会 1983.3.31

瀬底貝塚

嵩元政秀「グシクについての試論」『琉大史学』創刊号 琉球大学史学会1969.8.23

多和田眞淳「琉球古代の鉄の輸入（その一）」『考古学ジャーナル』No.14 1967

屋我グスク

『名護市の遺跡(2)』名護市文化財調査報告-4
名護市教育委員会 1982.3.25

フガヤ遺跡

『フガヤ遺跡・田井等遺跡・羽地間切番所跡遺跡・仲尾次上グシク遺跡』名護市文化財調査報告-8

名護市教育委員会 1988.3.30

宇茂佐古島遺跡

『宇茂佐古島遺跡』名護市文化財調査報告-10
名護市教育委員会 1992.3.31

松田遺跡

『松田遺跡』沖縄県文化財調査報告書第76集
沖縄県教育委員会 1986.3.24

前原第2遺跡

『前原第2遺跡』宜野座村乃文化財12 1993.3.30
クジチ墓跡

『宜野座村乃文化財(6)』宜野座村教育委員会
1988.3.20

ウェーヌアタイ遺跡

『漢那ウェーヌアタイ遺跡』宜野座村乃文化財
(9) 宜野座村教育委員会 1990.3.31

漢那ヌカンジャー屋跡

『宜野座村乃文化財(I)』宜野座村教育委員会
1981.3.20

漢那福地川水田遺跡

『漢那福地川水田遺跡』宜野座村乃文化財10・11
1993.3.31

金武グスク

大城慧「沖縄グスク時代鉄器・鉄滓出土地地名表」
『文化課紀要』第6号 沖縄県教育委員会 1990.3

熱田貝塚

『恩納村熱田貝塚発掘調査ニュース』沖縄県教育
委員会 1978.3.30

山田グスク

『山田グスク』恩納村教育委員会 1990.6

吹出原遺跡

『吹出原遺跡』読谷村文化財調査報告書第9集
読谷村教育委員会 1990.3.25

座喜味城跡

『座喜味城跡-環境整備事業報告書(II)-』読谷村
教育委員会 1986.3

伊波後原遺跡

當真嗣一「石川市伊波後原遺跡調査概報」『南島
考古』第4号 沖縄考古学会 1975.9.21

伊波グスク

嵩元政秀「グシクについての試論」『琉大史学』
創刊号 琉球大学史学会1969.8.23

- 伊波城跡北西遺跡
『伊波城跡北西遺跡』石川市文化財調査報告書
石川市教育委員会 1996.3.31
- 古我地原内古墓遺跡
『古我地原内古墓』沖縄県文化財調査報告書第85集 沖縄県教育委員会 1987.12.25
- 宇堅貝塚
『宇堅貝塚群・アカジャンガ一貝塚』具志川市教育委員会 1980.3.30
『宇堅貝塚出土の青銅品』『南島考古だより』第42号 1990.6.20
『具志川市の文化財』第1集 具志川市教育委員会 1991.2.8
- 具志川グスク
『具志川グスク発掘調査展』展示会パンフレット 具志川市教育委員会 1996.3
- 喜屋武マープ遺跡
大城慧「沖縄グスク時代鉄器・鉄滓出土地地名表」
『文化課紀要』第6号 沖縄県教育委員会 1990.3
- 平安座貝塚
多和田眞淳「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」
『文化財要覧』琉球政府文化財保護委員会 1956.6.15
- 浜貝塚
『勝連町の遺跡』勝連町の文化財第17集 勝連町教育委員会 1993.3
- 平敷屋トウバル遺跡
『平敷屋トウバル遺跡』沖縄県文化財調査報告書第125集 沖縄県教育委員会 1996.3.29
- 平敷屋古島遺跡
『平敷屋古島遺跡』勝連町の文化財第13集 勝連町教育委員会 1991.3
- 南風原古島遺跡
『勝連町の遺跡』勝連町の文化財第17集 勝連町教育委員会 1993.3
- 勝連城跡
『琉球文化財調査報告書』琉球政府文化財保護委員会 1965.6.30
『琉球文化財調査報告書』琉球政府文化財保護委員会 1966.11.30
『勝連城跡』勝連町の文化財第5集 勝連町教育委員会 1983.3.18
- 『勝連城跡』勝連町の文化財第6集 勝連町教育委員会 1984.3.19
『勝連城跡』勝連町の文化財第11集 勝連町教育委員会 1990.3
- 勝連北貝塚
『琉球文化財調査報告書』琉球政府文化財保護委員会 1966.11.30
『勝連町の遺跡』勝連町の文化財第17集 勝連町教育委員会 1993.3
『勝連城跡』勝連町の文化財第11集 勝連町教育委員会 1990.3
- 勝連南貝塚
『琉球文化財調査報告書』琉球政府文化財保護委員会 1966.11.30
『勝連城跡』勝連町の文化財第6集 勝連町教育委員会 1984.3.19
『勝連町の遺跡』勝連町の文化財第17集 勝連町教育委員会 1993.3
- 越來グスク
『ぐすく-グスク分布調査報告(I)・沖縄本島及び周辺離島-』沖縄県文化財調査報告書第53集 沖縄県教育委員会 1983.3.31
『沖縄市の埋蔵文化財』沖縄市文化財調査報告書第4集 沖縄市教育委員会 1982.3.25
『越來城』沖縄市文化財調査報告書第11集 沖縄市教育委員会 1988.3.31
- 仲宗根貝塚
『仲宗根貝塚』沖縄県文化財調査報告書第33集 沖縄県教育委員会 1980.3.31
- 比屋根遺跡
『沖縄市の埋蔵文化財』沖縄市文化財調査報告書第4集 沖縄市教育委員会 1982.3.25
- 渡口洞穴遺物散布地
多和田眞淳「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」
『文化財要覧』琉球政府文化財保護委員会 1956.6.15
- ヒニグスク
『琉球文化財調査報告書』琉球政府文化財保護委員会 1966.11.30
- 石嶺坂石敷道
『石嶺坂石敷道』沖縄県文化財調査報告書第80集 沖縄県教育委員会 1986.3.31

新垣グスク

『中城村の遺跡』 中城村の文化財第3集 中城村
教育委員会 1992.3.31

上津波遺跡

『中城村の遺跡』 中城村の文化財第3集 中城村
教育委員会 1992.3.31

屋宜平原遺跡

『中城村の遺跡』 中城村の文化財第3集 中城村
教育委員会 1992.3.31

屋良グスク

『掘り出された沖縄の歴史-発掘調査10年の成果-』
沖縄県教育委員会 1982.2.14

『屋良グスク』 嘉手納町文化財調査報告書第1集
嘉手納町教育委員会 1994.3.31

砂辺サーク原遺跡

『砂辺サーク原遺跡』 沖縄県文化財調査報告書第
81集 沖縄県教育委員会 1987.3.30

クマヤ一洞穴遺跡

『北谷町の遺跡』 北谷町文化財調査報告書第14集
北谷町教育委員会 1994.3.30

北谷グスク

『北谷城-北谷城第一次調査-』 北谷町文化財調査
報告書第1集 北谷町教育委員会 1984.3.31

『北谷城-北谷城第六次調査-』 北谷町文化財調査
報告書第11集 北谷町教育委員会 1991.3.31

『北谷城-北谷城第七次調査-』 北谷町文化財調査
報告書第12集 北谷町教育委員会 1992.3.30

北谷城第7遺跡

『北谷城第7遺跡』 北谷町文化財調査報告書第2
集 北谷町教育委員会 1985.3.31

安仁屋トウンヤマ遺跡

『安仁屋トウンヤマ遺跡』 沖縄県文化財調査報告
書第105集 沖縄県教育委員会 1992.3.31

喜友名山川原第6遺跡

『喜友名遺跡群』 宜野湾市文化財調査報告書第5
集 宜野湾市教育委員会 1984.3.35

大山富盛原第一遺跡

『大山富盛原第一遺跡』 宜野湾市文化財調査報告
書第22集 宜野湾市教育委員会 1996.3.29

奥間ノロ墓

『奥間ノロ墓』 宜野湾市文化財調査報告書第24集
宜野湾市教育委員会 1996.3.25

牧港貝塚（第二地区）

『牧港貝塚・真久原遺跡』 沖縄県文化財調査報告
書第65集 沖縄県教育委員会 1985.3.31

真久原遺跡

『牧港貝塚・真久原遺跡』 沖縄県文化財調査報告
書第65集 沖縄県教育委員会 1985.3.31

拝山遺跡

『拝山遺跡』 沖縄県文化財調査報告書第83集 沖
縄県教育委員会 1987.9.20

浦添城跡

『浦添城跡第二次発掘調査概報』 浦添市文化財調
査報告書第6集 浦添市教育委員会 1984.3

『浦添城跡発掘調査報告書』 浦添市文化財調査報
告書第9集 浦添市教育委員会 1985.3

内間グスク

『うらそえの文化財』 浦添市文化財調査報告書第
1集 浦添市教育委員会 1980.3

『ぐすぐ-グスク分布調査報告(I)・沖縄本島及び
周辺離島-』 沖縄県文化財調査報告書第53集
沖縄県教育委員会 1983.3.31

我謝遺跡

『掘り出された沖縄の歴史-発掘調査10年の成果-』
沖縄県教育委員会 1982.2.14

『我謝遺跡』 西原町文化財調査報告書第4集 西
原町教育委員会 1982.3

『我謝遺跡』 西原町文化財調査報告書第5集 西
原町教育委員会 1983

『ぐすぐ-グスク分布調査報告(I)・沖縄本島及び
周辺離島-』 沖縄県文化財調査報告書第53集
沖縄県教育委員会 1983.3.31

銘苅遺跡

嵩元政秀「グシクについての試論」『琉大史学』
創刊号 琉球大学史学会 1969.8.23

ヒヤジョー毛遺跡

『ヒヤジョー毛遺跡』 那覇市文化財調査報告書第
26集 那覇市教育委員会 1994.3.15

崇元寺跡

『崇元寺跡』 那覇市教育委員会 1983.3

首里城跡

「平安時代の遺物?-琉大構内から剣出土-」 沖縄
タイムス 1967.5.17

「両刃の古剣を発見-首里城-」 琉球新報 1967.5.17

- 『ぐすぐ-グスク分布調査報告(I)・沖縄本島及び周辺離島-』沖縄県文化財調査報告書第53集
沖縄県教育委員会 1983.3.31
- 『旧首里城正殿跡位置確認調査報告書』沖縄県教育委員会 1986.3.28
- 『首里城跡』沖縄県文化財調査報告書第88集 沖縄県教育委員会 1988.3
- 『首里城-南殿・北殿の遺構調査報告書-』沖縄県文化財調査報告書第120集 沖縄県教育委員会 1995.3
- 中城御殿跡
『旧中城御殿-第一次調査-』沖縄県立博物館 1993.3
- 『旧中城御殿-第二次調査-』沖縄県立博物館 1994.3
- 『旧中城御殿-第三次調査-』沖縄県立博物館 1995.3
- 御細工所跡
『御細工所跡』那覇市文化財調査報告書第18集
那覇市教育委員会 1991.3.31
- 識名園跡
『名勝識名園環境整備事業報告書(1)』名勝識名園環境整備委員会 1977.3
- 那崎原遺跡
『那崎原遺跡』那覇市文化財調査報告書第30集
那覇市教育委員会 1996.3.87
- 長嶺グスク『豊見城村の遺跡』豊見城村文化財調査報告書第3集 豊見城村教育委員会 1988.3.31
- 饒波カニマン遺跡
『豊見城村の遺跡』豊見城村文化財調査報告書第3集 豊見城村教育委員会 1988.3.31
- 豊見城原遺物散布地
『豊見城村の遺跡』豊見城村文化財調査報告書第3集 豊見城村教育委員会 1988.3.31
- 伊良波東遺跡
『伊良波東遺跡』豊見城村文化財調査報告書第2集 豊見城村教育委員会 1987
- 瀬長グスク
『ぐすぐ-グスク分布調査報告(I)・沖縄本島及び周辺離島-』沖縄県文化財調査報告書第53集
沖縄県教育委員会 1983.3.31
- 平良グスク
『豊高郷土史』第2号 豊見城高等学校郷土史研究クラブ 1969.3
- 『ぐすぐ-グスク分布調査報告(I)・沖縄本島及び周辺離島-』沖縄県文化財調査報告書第53集
沖縄県教育委員会 1983.3.31
- 『豊見城村の遺跡』豊見城村文化財調査報告書第3集 豊見城村教育委員会 1988.3.31
- 高嶺古島遺跡
『高嶺古島遺跡』豊見城村文化財調査報告書第4集 豊見城村教育委員会 1990.3.31
- 保栄茂後原遺跡
『豊見城村の遺跡』豊見城村文化財調査報告書第3集 豊見城村教育委員会 1988.3.31
- 保栄茂グスク
『豊見城村の遺跡』豊見城村文化財調査報告書第3集 豊見城村教育委員会 1988.3.31
- 津嘉山古島遺跡
『南風原町の遺跡』南風原町文化財調査報告書第1集 南風原町教育委員会 1993.3.31
- クニンドー遺跡
『クニンドー遺跡』南風原町文化財調査報告書第2集 南風原町教育委員会 1996.3.29
- 安平田遺跡
『南風原町の遺跡』南風原町文化財調査報告書第1集 南風原町教育委員会 1993.3.31
- 宮平遺跡
『昔はじまりや-南風原村宮平遺跡発掘調査報告-』1号 琉球考古学研究会 1975.6.15
- 御宿井遺跡
『南風原町の遺跡』南風原町文化財調査報告書第1集 南風原町教育委員会 1993.3.31
- 大里グスク
『大里村の遺跡』大里村文化財調査報告書第1集 大里村教育委員会 1992.3
- 稻福遺跡
『稻福村落-稻福村落第一次調査報告書-』琉球大学考古学研究会 1971.9.1
『稻福遺跡』稻福遺跡考古資料館 琉球考古学研究会編 1974.1
『稻福遺跡発掘調査報告書(上御願地区)』沖縄県文化財調査報告書第50集 沖縄県教育委員会

- 1983.3.31
大城グスク
『豊高郷土史』第2号 豊見城高等学校郷土史研究クラブ 1969.3
當眞嗣一「沖縄における鉄滓遺跡と鉄器の諸問題について」『琉大史学』第2号 琉球大学史学会 1971.6.30
- 佐敷グスク
『佐敷グスク』佐敷町教育委員会 1980.3
糸数城跡
『糸数城跡』玉城村文化財調査報告書第1集 玉城村教育委員会 1991.3
- 玉城グスク
當眞嗣一「沖縄における鉄滓遺跡と鉄器の諸問題について」『琉大史学』第2号 琉球大学史学会 1971.6.30
- ジリグスク
大城慧「沖縄グスク時代鉄器・鉄滓出土地地名表」『文化課紀要』第6号 沖縄県教育委員会 1990.3
- 八重瀬グスク
『八重瀬グスク』東平風町文化財調査報告書第1集 東平風町教育委員会 1979.3.31
- 具志頭グスク
『具志頭村の遺跡』具志頭村文化財調査報告書第3集 具志頭村教育委員会 1986.3.31
- 玻名城古島遺跡
『具志頭村の遺跡』具志頭村文化財調査報告書第3集 具志頭村教育委員会 1986.3.31
- 阿波根古島遺跡
『阿波根古島遺跡』沖縄県文化財調査報告書第96集 沖縄県教育委員会 1990.3.31
- 南山グスク
『糸満市の遺跡』糸満市文化財調査報告書第1集 糸満市教育委員会 1981.3.20
『南山城跡第一次緊急発掘調査概要』糸満市教育委員会 1984.5.31
- 川田原貝塚
「鉄の起源は西暦300年-多和田氏900年説を訂正-」沖縄タイムス 1971.1.27
「沖縄の鉄精錬は起源三百年-川田原貝塚から鉄くず-」琉球新報 1971.1.27
多和田眞淳「琉球古代の鉄の輸入（その二）」
- 『考古学ジャーナル』No.59 1971.
フェンサグスク
『フェンサ城貝塚調査概報』『法文学部紀要』琉球大学法文学部 1969.4.1
伊原遺跡
『伊原遺跡』沖縄県文化財調査報告書第73集 沖縄県教育委員会 1986.3.31
- 佐慶グスク
『佐慶グスク・山城古島遺跡』糸満市文化財調査報告書第8集 糸満市教育委員会 1994.3
里東原遺跡
『里東原遺跡』糸満市文化財調査報告書第10集 糸満市教育委員会 1995.3.31
里遺跡
『渡名喜島の遺跡』『県立博物館総合調査報告書II』沖縄県立博物館 1981.3.31
具志川グスク大澤正己
「渡名喜島遺跡発見の鉄滓について-沖縄県下出土の鉄滓の調査-」『渡名喜島の遺跡I』渡名喜村教育委員会 1979.3.31
『ぐすく-グスク分布調査報告(I)・沖縄本島及び周辺離島-』沖縄県文化財調査報告書第53集 沖縄県教育委員会 1983.3.31
清水貝塚
『清水貝塚』具志川村文化財調査報告書第1集 具志川村教育委員会 1989.3.31
久米島下地原洞遺跡
上江洲均「久米島下地原洞収集の鍬先について」『沖縄県立博物館紀要』第6号 沖縄県立博物館 1980.3.31
狩俣遺跡
『宮古島狩俣の製鉄遺跡』『郷土』第9号 沖縄大學 1970.12
オイオキ原遺跡
『ぐすく-グスク分布調査報告(II)・宮古諸島-』沖縄県文化財調査報告書第94集 沖縄県教育委員会 1983.3.31
上の頂遺跡
「上の頂（ウイヌツズ）遺跡調査概報」『琉大史学』第4号 琉球大学史学会 1973.6.20
『ぐすく-グスク分布調査報告(II)・宮古諸島-』沖縄県文化財調査報告書第94集 沖縄県教育委員会

- 会 1983.3.31
- 住屋遺跡
 『宮古平良市住屋遺跡緊急発掘調査報告』沖縄県文化財調査報告書第39集 沖縄県教育委員会 1981.3.30
 『住屋遺跡（俗称・尻間）発掘調査報告』平良市教育委員会 1983.3.31
 『住屋遺跡』平良市文化財調査報告書第2集 平良市教育委員会 1992.3
- ミズマ御嶽遺跡
 『宮古の遺跡』沖縄県文化財調査報告第54集 沖縄県教育委員会 1983.3
- 与那覇遺跡
 『宮古の遺跡』沖縄県文化財調査報告第54集 沖縄県教育委員会 1983.3
- 宮国元島遺跡
 『宮国元島』上野村教育委員会 1980.3
- 新里元島遺跡
 『宮古の遺跡』沖縄県文化財調査報告書第54集 沖縄県教育委員会 1983.3
- 砂川元島遺跡
 『砂川元島遺跡発掘調査概報』（一次）砂川元島遺跡発掘調査団（青山学院大学）1975.3.31
 『砂川元島遺跡発掘調査概報』（二次）砂川元島遺跡発掘調査団（青山学院大学）1976.3.31
 『砂川元島』城辺町文化財調査報告第4集 城辺町教育委員会 1989.3
- 友利元島遺跡
 大城慧「沖縄グスク時代鉄器・鉄滓出土地地名表」
 『文化課紀要』第6号 沖縄県教育委員会 1990.3
- 高腰グスク
 『高腰城跡』城辺町文化財調査報告書5集 城辺町教育委員会 1989.3.31
- 仲筋貝塚
 『仲筋貝塚発掘調査報告』仲筋貝塚発掘調査団 1981.7.1
- ヤマバレー遺跡
 『沖縄・石垣島ヤマバレー遺跡発掘調査概報』ヤマバレー遺跡調査団（青山学院大学）1977.3.30
 『沖縄・石垣島ヤマバレー遺跡第2次発掘調査概報』ヤマバレー遺跡調査団（青山学院大学）1980.7.31
- 桃里恩田遺跡
 『桃里恩田遺跡発掘調査ニュース』石垣市教育委員会 1981.7.13
 『桃里恩田遺跡』石垣市文化財調査報告書第5号 石垣市教育委員会 1982.3
- カンドウ原遺跡
 『カンドウ原遺跡緊急発掘調査ニュース-1977年度-』沖縄県教育委員会 1978.3.30
 『カンドウ原遺跡発掘調査報告（I）』沖縄県文化財調査報告書第49集 沖縄県教育委員会 1983.3.31
 『カンドウ原遺跡』沖縄県文化財調査報告書第58集 沖縄県教育委員会 1984.3.31
- フルスト原遺跡
 『フルスト原遺跡発掘調査概要』石垣市教育委員会 1983.3
 『フルスト原遺跡発掘調査報告書』石垣市文化財調査報告書第7号 1984.3
- 平得仲本御嶽遺跡
 『八重山石垣島平得仲本御嶽遺跡発掘調査報告』沖縄県文化財調査報告第3集 沖縄県教育委員会 1976.3.31
- 山原貝塚
 「八重山の考古学」『沖縄・八重山』溝口宏編 1960.7.10
- 新里村遺跡
 1986～1987年にかけて沖縄県教育委員会により発掘調査
 大城慧「沖縄グスク時代鉄器・鉄滓出土地地名表」
 『文化課紀要』第6号 沖縄県教育委員会 1990.3
- カイジ浜貝塚
 『カイジ浜貝塚』沖縄県文化財調査報告書第115集 沖縄県教育委員会 1994.3.31
- 成屋遺跡
 『竹富町・与那国町の遺跡』沖縄県文化財調査報告書第29集 沖縄県教育委員会 1980.3.31
 「西表・成屋遺跡発掘調査概報」『青山史学』第9号 1987.3
- 上村遺跡
 『上村遺跡』沖縄県文化財調査報告書第98集 沖縄県教育委員会 1991.3

鳩間島中森貝塚

「八重山鳩間島中森貝塚発掘概報」『文化財要覧』
琉球政府文化財保護委員会 1959.6.30

船浦スラ所跡

『船浦スラ所跡』 沖縄県文化財調査報告書第101
集 沖縄県教育委員会 1991.3

船浦貝塚

「鉄ノミなど発見-西表の船浦貝塚から-」 沖縄タ
イムス 1973.8.25

大城慧「沖縄グスク時代鉄器・鉄滓出土地地名表」

『文化課紀要』第6号 沖縄県教育委員会 1990.3

与那良遺跡

『与那良遺跡発掘調査概報』 与那良遺跡発掘調査
団 1982

仲間第一貝塚

多和田眞淳「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」
『文化財要覧』 琉球政府文化財保護委員会 1956.
6.15

与那原遺跡

『与那原遺跡』 与那国町文化財調査報告書第2集
与那国町教育委員会 1988.3.31

大泊浜貝塚

『下田原貝塚・大泊浜貝塚』 沖縄県文化財調査報
告書第74集 沖縄県教育委員会 1986.3.31